

「初めて選挙に臨んで」

八幡南高等学校 立園 星菜

私は今年、母と共に初めて選挙に行った。そこは、私が通っていた小学校の体育館だった。机が並べられ、壁には一人ずつ記入するための箱のようなものが設置されていた。私は、中学校の時に行われた生徒会役員選挙を思い出した。私の通っていた中学校では、生徒会役員を決める際に、実際の選挙のように一切私語をせず、一人ずつ記入し投票するという形式だった。その時は特に何も思わず、ただ先生から指示された通りに動くだけであった。しかし、実際の選挙は、夜のため人があまりいなかったせいか、静寂の中での投票でとても緊張した。見慣れたはずの体育館がなぜだか怖くなり、早く帰りたと思ったが、中に居た方々が笑顔で対応してくださったので、スムーズに投票することができた。

私は今まで政治に全く関心が無く、テレビで政治に関するニュースが流れていても、何気なくただボーッと見ていた。そのようなある日、十八歳から選挙に参加することができるということを耳にした。今までずっと他人事のように考えていた政治のことを、十八歳になった私たちも一緒に考えていかなければならないということに、少し戸惑いを感じた。と同時に、それはとても素晴らしいことだなと思った。

私は現在の若い人々は、私のように政治に無関心な人が多いと感じている。だから、選挙権を十八歳に引き下げることは、政治や経済について考える意識が向上することにつながると思った。現に私がそうであるからだ。しかし、十八歳になって、選挙権を持っているにもかかわらず、選挙に行っていない人が沢山いる。私は、そのような人々に、せっかく選挙権を持っているのだから、選挙に行くべきであるということを伝えていきたい。何故ならこれからはわたたちが率先して、政治の牽引者になっていかななくてはいけないからだ。現在の日本は少子化である。子どもが少ないうえに政治に無関心な人ばかりでは、これからの日本が心配である。明るく元気に世界で活躍できる日本を創っていくためにも、私達若者は、選挙権がなぜ十八歳まで引き下げられたのかという理由をよく考え、「選挙権」を大事に、有効に行使していかなければならない。